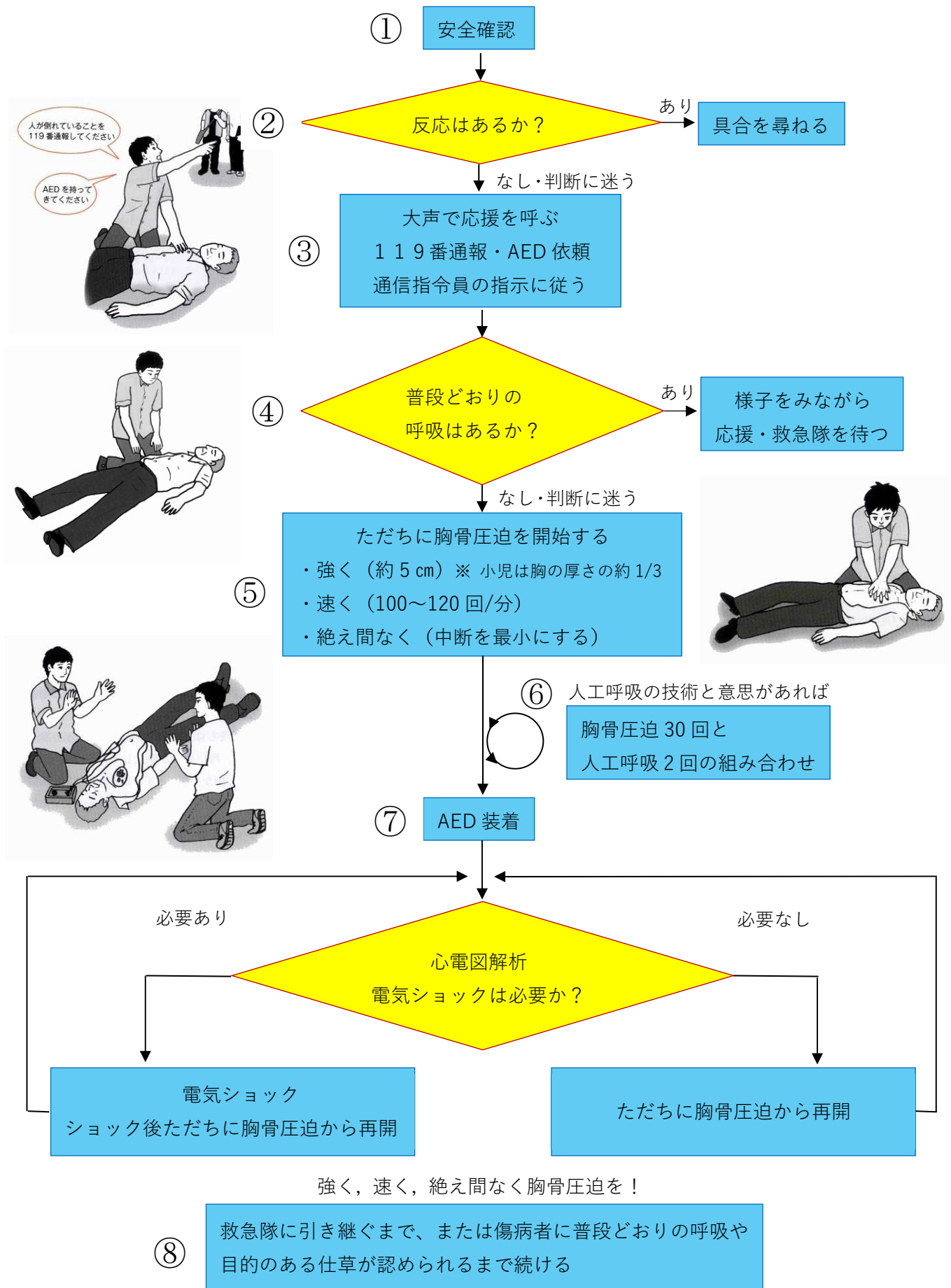


AED を用いた心肺蘇生の手順



心肺蘇生と AED 使用のポイント

呼吸の確認



傷病者の胸と腹の上がり下がりを見て、「普段どおりの呼吸」をしているかを確認します。

次のいずれかの場合には、「普段どおりの呼吸なし」と判断します。

- ・ 胸と腹の動きがない場合
- ・ 約 10 秒間確認しても呼吸の状態がよくわからない場合
- ・ しゃくりあげるような、途切れ途切れに起きる呼吸がみられる場合

このしゃくりあげるような呼吸は心停止が起こった直後にみられることがある「死戦期呼吸」といい、「普段どおりの呼吸」ではありません。

胸骨圧迫：30 回



胸の左右真ん中にある胸骨の下半分を、重ねた両手で圧迫します。両肘をまっすぐに伸ばして手のひらの付け根の部分に体重をかけ、真上から垂直に胸を圧迫します。

- ・ 強く：傷病者の胸が約 5 cm 沈み込むようにしっかり圧迫
- ・ 速く：1 分間に 100～120 回のテンポで連続して圧迫
- ・ 絶え間なく：AED の使用や人工呼吸を行う以外は、できるだけ中断しない
圧迫と圧迫の間（圧迫を緩めるとき）は、十分に力を抜き、胸が元の高さに戻るようにします。

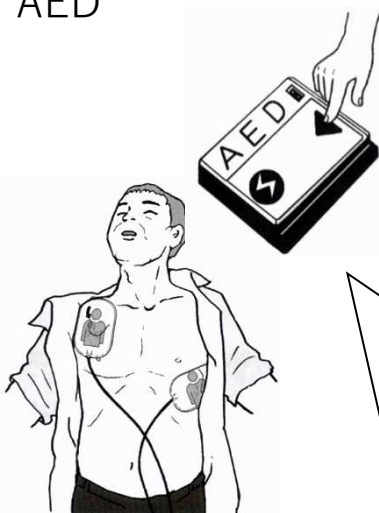
人工呼吸：2 回



人工呼吸を行う意思がある場合には、以下の要領で行います。

- ・ 気道確保（頭を後ろにのけぞらせ、あご先を上げる）して、傷病者ののどの奥を広げて空気を肺に通しやすくします。
- ・ 傷病者の鼻をつまみ、自分の口を大きく開けて傷病者の口を覆って密着させ、息を吹き込みます。
- ・ 傷病者の胸が上がるのが見てわかる程度の量の息を約 1 秒間かけて吹き込みます。いったん口を離し、同じ要領でもう 1 回吹き込みます。

AED



AED は電源を入れたら、音声メッセージであなたが行うべきことを指示してくれます。落ち着いて指示に従ってください。

- ・ 傷病者の胸をはだけ、電極パッド等に描かれているイラストに従ってパッドの粘着面を肌に直接貼り付けます。
- ・ 電極パッドを貼り付けると「体から離れてください」などの音声メッセージが流れ、心電図の解析を始めます。誰も傷病者に触れていないことを確認します。
- ・ 電気ショックが必要と解析した場合は、自動的に充電が始まり、完了すると電気ショックを促す音声メッセージが流れます。
- ・ AED の操作者は「ショックを行います。みなさん、離れて」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認して、ショックボタンを押します。